

# 災害・事故等報告書

園名：みそら保育園

報告日：令和5年 9月29日

報告者	中村 浩司
発生日時	令和5年 9月29日 AM9時30分頃
入所(園)児名	
けがの状況	右手首脱臼の疑い (診察の結果：骨に異常が見られず、当面患部を冷やして様子を見る。)

## <発生状況>

9時30分頃、朝の体操を終えおやつの準備のため、ハンドソープでの手洗いを促すが、本人がもっと洗いたいという気持ちで手洗いを続けており、保育士が保育室へ誘導するため、右手をつないで連れていきました。その際本人がもっと洗いたい気持ちで嫌がったこともあり、右手首に無理に力が加わり、一度は保育室に入るが、本人がもっと洗いたい気持ちで再度手洗い場まで戻り、手を洗おうと蛇口を操作するため、右手を動かそうとした際急に泣き始め、その後右手を動かすごとに痛がる様子が見られました。

職員室にて症状を確認し、症状的に右手に脱臼の疑いがあるため、保護者に状況を説明のため電話連絡を入れ、病院へ受診することの了解を得て、事務職員と主任保育士が引率し病院で診察を受けました。

## <保護者への対応>

病院で受診待ちをしている際、お父さんが駆けつけてくれ、謝罪と状況の説明をするが、無理に力が加わらない限り起こりえない怪我のため、第三者からのオブラートに包んだような説明では納得されず、当事者の保育士から直接説明する必要を感じたため、当事者の保育士を病院まで呼び、当事者から謝罪と状況の説明を行う。

当該保育士からは「そんなつもりはなかった。」「力を込めて引っ張っていない。」と伝えるが、強い力が加わらなければ起きない症状に、「そんなつもりはなかった。」という説明では当然納得できないご家族の気持ちをしっかり受け止め、引き続き謝罪とこれからの対応など丁寧に言葉がけをし、再発防止に取り組んでいくことを伝えました。

## <今後の対応>

お父さんから保育士のあるべき姿について、「嫌がる子にも手を引っ張って無理に入れていくのではなく、目線を合わせて、なだめてから連れていくことが保育士さんの役割ではないか」という思いをお聞きし、保育士としてごく当たり前の子どもに向き合う姿勢ができておらず、今回の事故が発生してしまったことを痛感し、日々の保育の流れに間に合わせようと焦ることなく、心にゆとりを持ってそれぞれのお子さんのペースに合わせて、無理なくやさしく向き合うよう意識づけを全職員に行うとともに、けがや事故だけでなくお子さんに対する言葉がけや接し方、個人の持ち物の入れ間違いや紛失など、今後も不適切保育につながらないような保育を提供できるよう、改善に取り組みます。

園長	主任	記録者	保育士
中村	岡田	中村	吉田、小林、藤田、西村、橋本、岡田、竹浦、北河、窪田、服部、西川